

開講科目名／Course	看護理論入門	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 2 学期／Second	
開講区分／semester offered	2 学期／Second	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	1	
主担当教員／Main Instructor	秦 さと子	
担当教員名／Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	看護現象を科学的に理解する力や看護の基盤となる看護観を養うことを目的とする。看護理論に関する基本的知識について学習し、看護理論と看護実践の関連・活用について考える。	
到達目標	1. 看護理論とは何かについて述べることができる。 2. 看護理論の分類、歴史的変遷について述べるができる。 3. 主な看護理論家の理論概要について説明できる。 4. 看護理論の看護実践への活用方法について説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、6.探求心と創造力	
授業計画	01. 看護理論とは、看護理論の歴史的変遷 02. 看護理論の理解：H.E.ペプロウ、I.M.キング、M.A.ニューマン 03. 看護理論の理解：Sr.C.ロイ、D.E.オレム、M.H.ミッシェル 04. 看護理論の理解：V.A.ヘンダーソン 05. 看護理論の活用：ヘンダーソン理論の活用①：病理的状態 06. 看護理論の活用：ヘンダーソン理論の活用②：常在条件 07. 看護理論の活用：ヘンダーソン理論の活用③：正常な発達・健康を導く学習 08. 看護理論の活用：ヘンダーソン理論の活用④：正常な呼吸、適切な飲食	
その他の授業の工夫	・看護実践で活用しやすい看護理論家を選定している。 ・模擬事例を用いて、看護理論を実際に活用する。 ・看護理論入門での学びを実践で活用できるように、V.A.ヘンダーソンの枠組みを基礎看護学実習の記録様式として活用する。	
時間外学修	事前学修：各理論家の理論についての概要を事前学修しておく。(4h) 事後学修：授業で扱った理論家について、復習をしておく。(18h) 授業で扱わなかった理論については、授業での理解の仕方を参考に学習することを推奨する。	
評価方法と評価割合	提出物（90%）、受講態度（10%）で評価する。 ・提出物は、提出状況（提出遅れは減点対象）と記載内容で評価する。 ・受講態度は、発言などの積極性、（個人／グループ）ワーク活動に対する取り組み姿勢で評価する。 ・遅刻・欠席は、減点対象とし、出席が50%以下の場合は単位認定不可とする。	
テキスト	1. 看護理論 看護理論21の理解と実践への応用 改訂第3版 （南江堂） 2. 看護の基本となるもの （日本看護協会出版会）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子：病院の看護師 石丸智子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 神矢恵美：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	多領域での看護実践経験から具体例を用いることで、看護理論に関する理解を促し、実践にどのようにつなげるのかを考察できるように支援する。	